

創作

小・中学校や『高校生の音楽1』で経験した創作を基礎に、
高校生がイメージをもって取り組むことのできる題材を取り上げました。

(教科書P.28・29)

音楽材や音階の特徴を生かして音楽をつくろう
BGMをつくろう

*BGM：バックグラウンドミュージック(背景に流れる音楽のこと)。
朗読、演劇、映像などに、場面の雰囲気にあったBGMをつけてみましょう。

準備1 BGMを付ける対象を選ぶ

朗読 演劇 映像

準備2 BGMを付ける場面を選ぶ

ココと...
ココに...

BGMは多すぎるとかたって
効果が薄くなることもある
ので気をつけよう。

準備3 付けるBGMのタイプを選ぶ

ここではBGMを大きく2つのタイプに分けて考えてみましょう。

サウンド系のBGM

打楽器などの音楽材を中心に、短い「音のまとまり」(ここでは「サウンドビース」と呼ぶ)を反復しながら音楽をつくる方法。

メロディー系のBGM

オリジナルのメロディーをつくり、それを自分たちで演奏できる楽曲に仕上げよう。

サウンド系とメロディー系の2つのタイプについて、それぞれ詳しい手順を掲載しました。

サウンド系のBGMをつくる

Step 1 場面の雰囲気に合いそうな音楽材を選ぶ

打楽器 身の回りの物 体

Step 2 選んだ音楽材を用いて、「サウンドビース」をつくる

音の長さやリズム
クワカク
トランファン

Step 3 「サウンドビース」の組み合わせや演奏の仕方などによってBGMをつくる

A 演奏する際は、おおよそ8拍に1回程度、同じリズムのサウンドビースを繰り返す。

B 演奏の順番にこらりと変えてみる。

Step 4 イメージした曲の動きを参考に、指や鍵盤を動かして繰り返すサウンドビースをつくる

1 音のまとまりを楽器にかかると...
2 大きな音で打つと響きが増える...
3 より響きやすいようにリズムを工夫する...

Step 5 もう1つのパートを追加する

1 1つ目のパートの動きを参考に、2つ目のパートの動きを工夫する。

BGMをつくるという題材で、場面の雰囲気に合う音楽をイメージし、思いや意図をもってつくることができます。

(教科書P.30・31)

メロディー系のBGMをつくる

Step 1 オリジナルのメロディーをつくる

1 音のまとまりを楽器にかかると...
2 大きな音で打つと響きが増える...
3 より響きやすいようにリズムを工夫する...

Step 2 演奏の順番にこらりと変えてみる

1 1つ目のパートの動きを参考に、2つ目のパートの動きを工夫する。

Step 3 イメージした曲の動きを参考に、指や鍵盤を動かして繰り返すサウンドビースをつくる

1 音のまとまりを楽器にかかると...
2 大きな音で打つと響きが増える...
3 より響きやすいようにリズムを工夫する...

Step 4 もう1つのパートを追加する

1 1つ目のパートの動きを参考に、2つ目のパートの動きを工夫する。

資料

音楽の授業ではもちろん、クラブ活動などのさまざまな音楽シーンでも役立つ充実した資料を掲載しました。

楽典

大塚康と監修

楽典

音符、記号、用語、音階、和音、コードネームなど各種の事項を6ページにまとめました。楽譜に関することを、生徒自身で調べることができます。

(教科書P.108~113)

音楽史年表

巻末の年表では、楽しいイラストとともに、古代から現代までの西洋音楽と日本音楽の流れを並行して概観することができます。

(教科書P.114~117)

オーケストラの編成

オーケストラは、木管楽器、金管楽器、打楽器、弦楽器からなる大合奏です。楽器によっては、グループや種別楽器が別れることもあります。また、使われる楽器やパートの人数なども異なります。

オーケストラの編成

オーケストラで一般的にみられる楽器の配置例やそれぞれの音域をまとめています。

(教科書P.107)